
CommonMP Ver1.4 インストール手順書

目 次

1. 概要	1-1
1.1 目的	1-1
2. 必要動作環境	2-1
2.1 ハードウェア構成	2-1
2.2 ソフトウェア構成	2-1
3. CommonMP のインストール手順	3-1
3.1 利用フロー	3-1
3.2 プログラムのインストールとアンインストール	3-2
3.2.1 プログラムのインストール	3-2
3.2.2 プログラムのアンインストール	3-2
4. CommonMP+GIS エンジンのインストール手順	4-1
4.1 利用フロー	4-1
4.2 プログラムのインストールとアンインストール	4-2
4.2.1 プログラムのインストール	4-2
4.2.2 GIS 用地図データのインストール	4-3
4.2.3 GIS エンジンの初期設定	4-5
4.2.4 プログラムのアンインストール	4-9
4.2.5 CommonMP-GIS ユーザ設定ファイル格納フォルダの手動削除	4-10
4.2.6 GIS 用地図データのアンインストール	4-10
5. (補足)Visual Studio 2010 上での動作	5-1

1. 概要

1.1 目的

本マニュアルは、CommonMP Ver1.4 のインストール方法について記載することを目的とします。

CommonMP Ver1.4 単体をインストールする場合は、3. CommonMP のインストール手順へ、CommonMP Ver1.4 +GIS エンジンインストールする場合は、4. CommonMP+GIS エンジンのインストール手順へお進み下さい。

※各種マニュアル類は CommonMP 一式の圧縮ファイルを解凍後、展開される「ドキュメント」フォルダを閲覧下さい。

2. 必要動作環境

2.1 ハードウェア構成

動作環境の基準として、ハードウェア構成を表 2.1 に記述します。但し、適用システム毎にハードウェア構成は異なるため、ハードウェアは適用システム側で用意するものとします。

表 2.1 ハードウェア構成

項番	構成品	品名
1	プロセッサ	Intel Core™2 Duo プロセッサ 2.53 GHz(推奨)
2	メモリ (RAM)	2.0GB(推奨)
3	HDD	300GB(推奨)
4	CD または DVD ドライブ	CD または DVD ドライブ
5	ディスプレイ	1,024×768 の解像度(最小) 1,280×1,024 の解像度 TrueColor(1,677 万色) (推奨)
6	マウス	ホイール付き 2 ボタンマウス
7	グラフィックスボード	OpenGL 対応ボードの搭載が必須

2.2 ソフトウェア構成

動作環境の基準として、ソフトウェア構成を表 2.2 に記述します。但し、適用システム毎にソフトウェア構成は異なるため、ソフトウェアは適用システム側で用意するものとします。

表 2.2 ソフトウェア構成

項番	構成品	品名
1	Operating System(OS)	Microsoft Windows 7 Professional Edition(32bit) (推奨) ※1 Microsoft Windows 7 Professional Edition(64bit) (推奨) ※1
2	.NET Framework	Microsoft .NET Framework 3.5 SP1
3	WEB ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 8.0 以上(推奨)
4	PDF ブラウザ	Adobe Reader XI 以上(推奨)
5	OpenGL	OpenGL 1.2 以上
6	DotNetZip	DotNetZip Library1.9 以上 ※2

※1 : Microsoft Windows 7 Professional Edition は Aero 機能を有効にして、動作検証を実施しています。

※2 : DotNetZip Library の利用条件

DotNetZip Library は、Microsoft Public License (Ms-PL) に基づき配布されています。本ソフトウェアのライセンスについては、以下のウェブページをご確認ください。

・ <http://dotnetzip.codeplex.com/license>

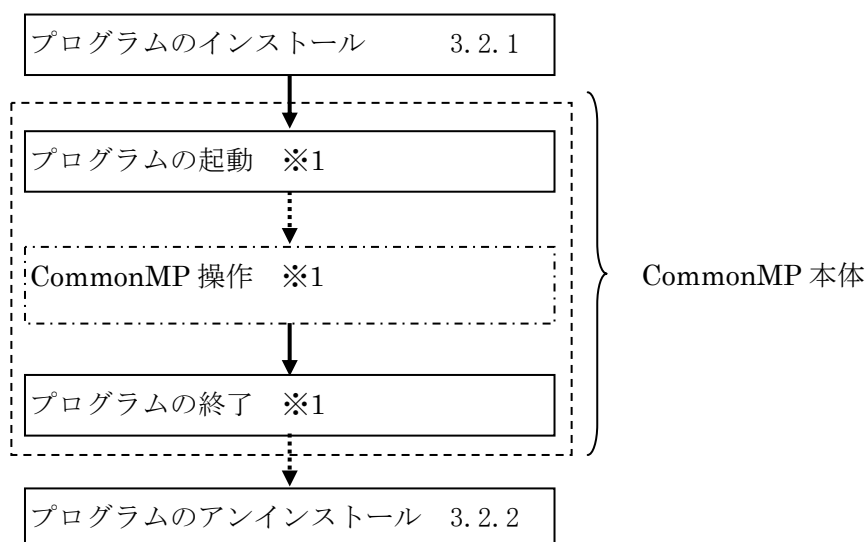
3. CommonMP のインストール手順

本章では、CommonMP のインストール手順について示します。

3.1 利用フロー

CommonMP の利用フローを図 3.1 に示します。

利用項目に添えられている数字は説明されている節、項を指します。



※1：詳細は操作手順書を参照してください。

図 3.1 CommonMP の利用フロー

「プログラムのインストール」は、はじめて「CommonMP」を使用する時に実施し、「プログラムのアンインストール」は、「CommonMP」を使用しなくなった時に実施します。

3.2 プログラムのインストールとアンインストール

3.2.1 プログラムのインストール

はじめて利用するときは、以下の手順に従い、プログラムをインストールして頂く必要があります。

(1) CommonMP 本体のインストール

CommonMP インストールパッケージ (CommonMPPackage.exe) をインストールフォルダに配置し、ダブルクリックすると、CommonMPPackage フォルダ下に以下のファイルが展開されます。

- | | | |
|-----------------------|---|-------------|
| ① CommonMPSetProc.exe | : | インストーラ |
| ② CommonMP.exe | : | CommonMP 本体 |

インストーラ (CommonMPSetProc.exe) をダブルクリックすると、CommonMP 本体がインストールフォルダに展開されます。

(2) CommonMP ドキュメントのインストール

ドキュメントファイル (CommonMPHelp.exe) をインストールフォルダに配置して、ダブルクリックします。

3.2.2 プログラムのアンインストール

プログラムをお使いのコンピュータから削除したい場合は、インストール先のフォルダを削除してください。データを残したい場合は、CommonMP フォルダ下の CommonMPData フォルダ以外を削除してください。

デスクトップにショートカットが作成されていますので、ショートカットを削除してください。

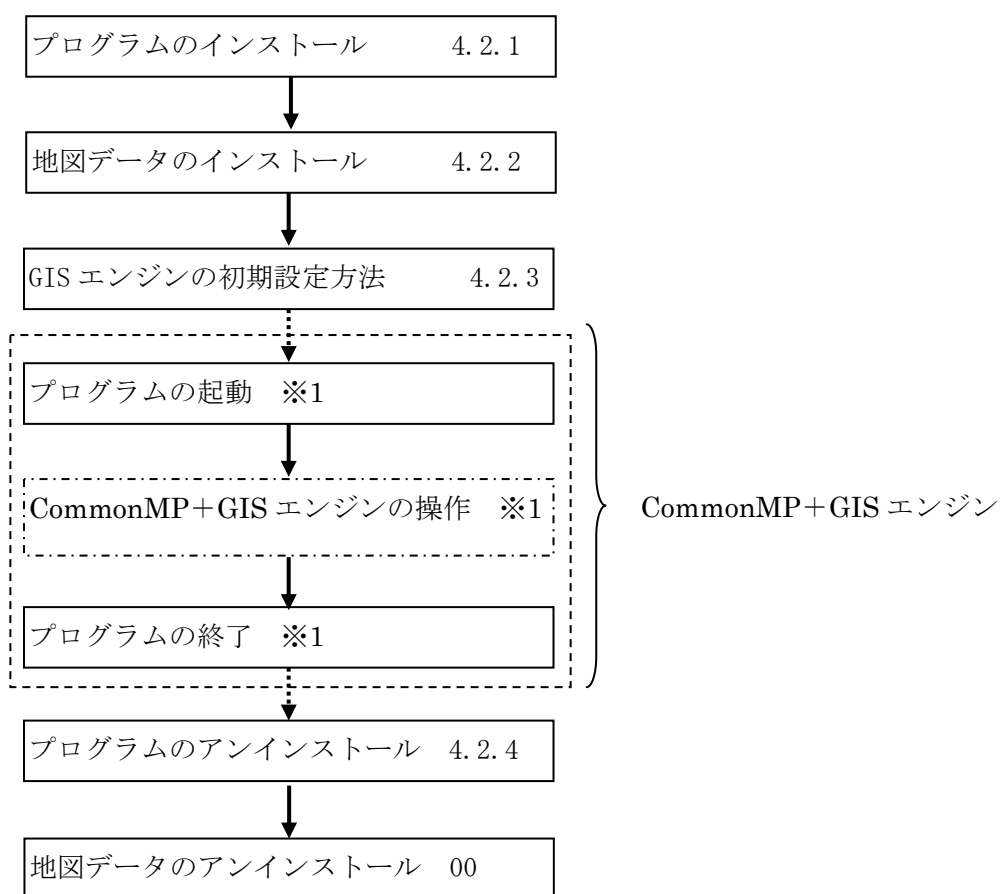
4. CommonMP+GIS エンジンのインストール手順

本章では、CommonMP のインストール手順について示します。

4.1 利用フロー

CommonMP+GIS エンジンの利用フローを図 4.1 に示します。

利用項目に添えられている数字は説明されている節、項を指します。



※1：詳細は操作手順書を参照してください。

図 4.1 CommonMP+GIS エンジンの利用フロー

「プログラムのインストール」は、はじめて「CommonMP」を使用する時に実施し、「プログラムのアンインストール」は、「CommonMP」を使用しなくなった時に実施します。

4.2 プログラムのインストールとアンインストール

4.2.1 プログラムのインストール

はじめて利用するときは、以下の手順に従い、プログラムをインストールして頂く必要があります。

(1) CommonMP 本体のインストール

CommonMP インストールパッケージ (CommonMPPackage.exe) をインストールフォルダに配置し、ダブルクリックすると、CommonMPPackage フォルダ下に以下のファイルが展開されます。

- ① CommonMPSetProc.exe : インストーラ
- ② CommonMP.exe : CommonMP 本体 (GIS 含む)

インストーラ (CommonMPSetProc.exe) をダブルクリックすると、CommonMP 本体及び GIS がインストールフォルダに展開されます。

(2) CommonMP ドキュメントのインストール

ドキュメントファイル (CommonMPHelp.exe) をインストールフォルダに配置して、ダブルクリックします。

4.2.2 GIS 用地図データのインストール

ここでは、CommonMP+GIS エンジンが利用する地図データのインストールについて説明します。地図データのインストール方法はインターネット接続環境や、過去に旧バージョンの CommonMP+GIS エンジンを利用している等により、手順が異なります。

以下の図を参照して、該当する項番号の手順で地図データのインストールを行ってください。

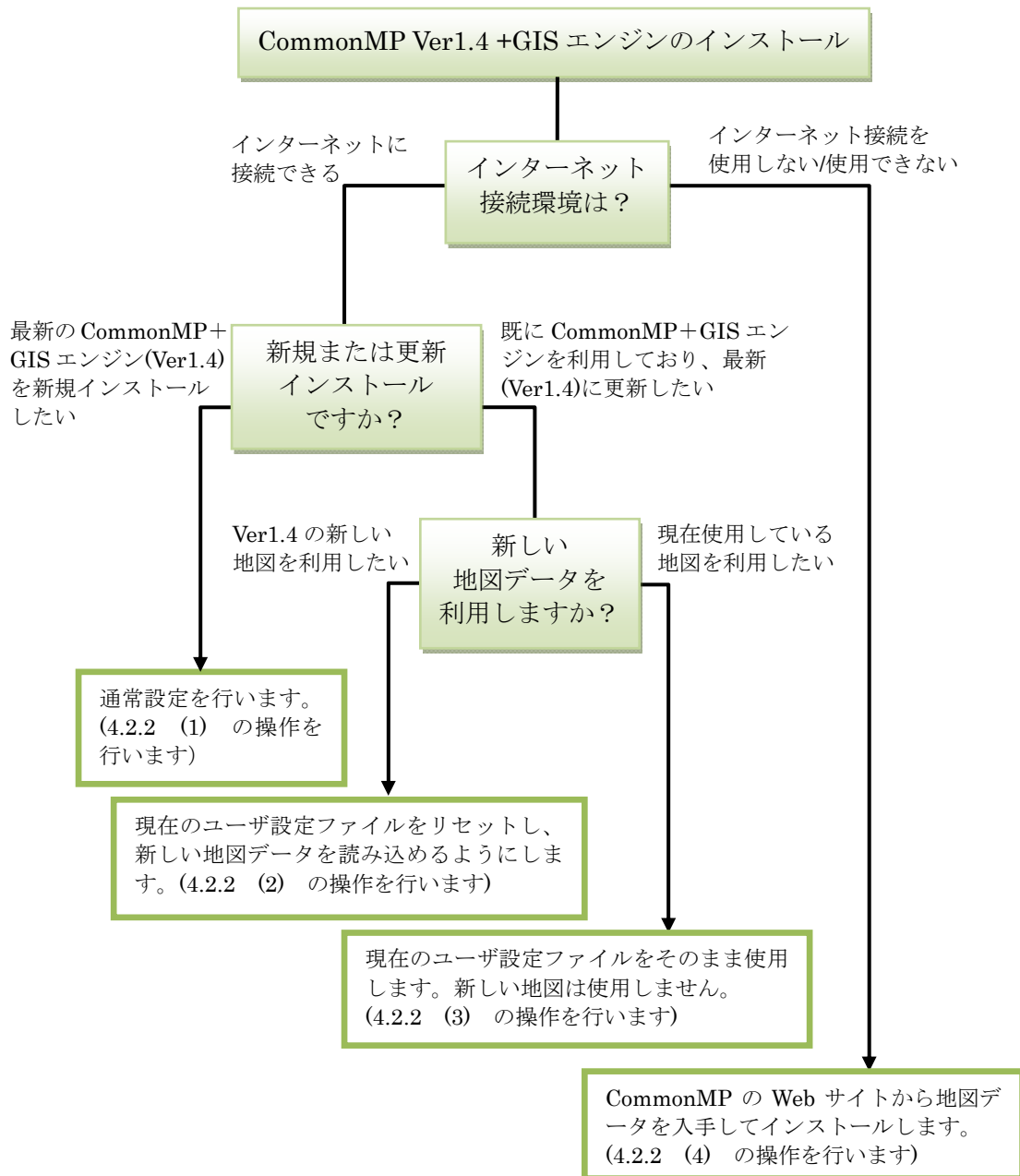


図 4.2 使用環境ごとの GIS 用地図データのインストール方法

(1) はじめて地図データの設定を行う場合（通常設定）

プログラムのインストール(4.2.1)を行うと、自動で地図データがインストールされます。そのため、別途にインストール操作を行う必要はありません。

インストールされた地図データは、インストールフォルダ内に「data」という名前で作成されています。この「data」のフォルダパスは以後のデータフォルダの設定(4.2.3 (3))の操作で利用しますので、メモ等で記録してください。

(2) ユーザ設定ファイルをリセットし、新たな地図データを読み込むようにする場合

CommonMP-GIS ユーザ設定ファイル格納フォルダの手動削除(4.2.5)の操作を行い、ユーザ設定ファイルを削除します。この操作により、過去に記憶していた地図データの設定情報がリセットされ、新たに使用する地図データを設定することが可能となります。

ユーザ設定ファイルのリセット後は、はじめて地図データの設定を行う場合（通常設定）(4.2.2 (1))と同様の操作で地図データを設定していきます。

(3) 既存の地図データをそのまま利用したい場合

現在作成されている設定情報が自動でそのまま引き継がれるため、特に操作は必要ありません。この際、以後の手順で行うデータフォルダの設定(4.2.3 (3))の画面が表示されなくなりますが、インストール操作に問題はありません。

(4) 地図データをダウンロードして使用する場合

地図データを CommonMP の Web サイトから入手して、インストールを行います。

1) インストールするデータ

GIS エンジンで使用する地図データは、以下のようなファイル構成になっています。

<GIS 用地図データ>

~¥data フォルダ以下

+ basemap : NASA 衛星画像および標高データ

2) 地図データをインストールするフォルダにコピーします。

GIS 用地図データをインストールするフォルダにコピーします。

提供するデータは、ZIP ファイルで圧縮された data.zip ファイルになります。コピーしてファイルをダブルクリックして任意のフォルダに解凍してください。解凍後、data.zip は削除します。コピー先の空き容量を確認の上、コピーしてください。

4.2.3 GIS エンジンの初期設定

(1) GIS インストール先の設定

- ① CommonMP 起動後、ファイルメニューから「環境定義」 - 「GIS 起動パス設定」を選択します(図 4.3)。

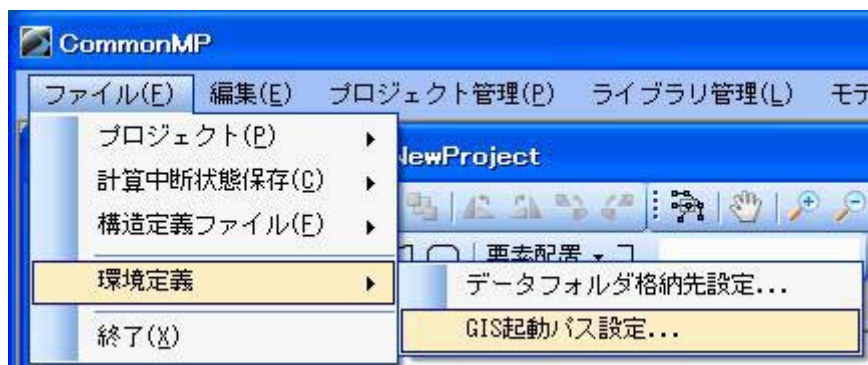


図 4.3 GIS インストール先の設定

- ② 『インストール先選択』画面が表示されます。インストールされた GIS アプリケーションを選択して、[開く]ボタンを押下してください(図 4.4)。

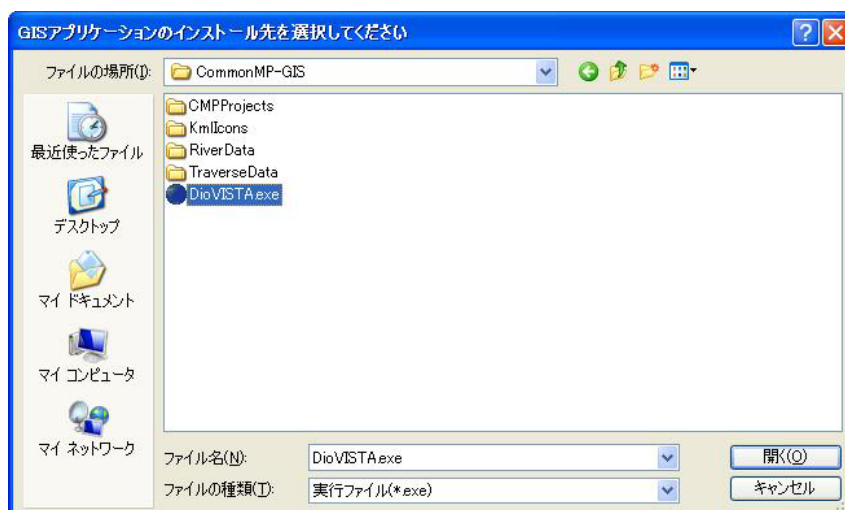


図 4.4 GIS アプリケーションの選択

- ③ CommonMP を再起動してください。GIS インストール先の設定完了です。

(2) GIS エンジンの起動

- ① ツールメニューから「GIS 表示」 - 「地図表示」を選択します(図 4.5)。



図 4.5 GIS エンジンの起動

(3) データフォルダの設定

- ① 『データフォルダ設定』画面が表示されます。[-] ボタンを押下して下さい。『フォルダ参照』画面が表示されます。『フォルダ参照』画面でデータのフォルダを選択し、[OK] ボタンを押下して下さい(図 4.6)。

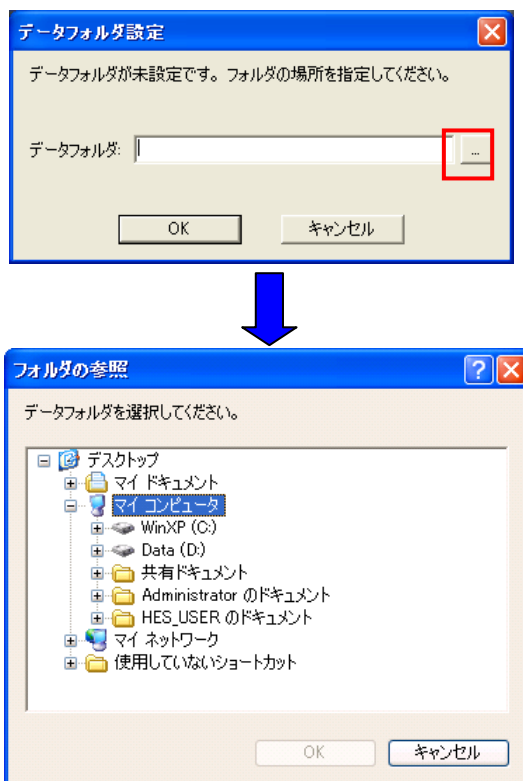


図 4.6 データフォルダの設定

-
- ② 『データフォルダ設定』画面で、データフォルダの参照先が指定されていることを確認し、[OK] ボタンを押下して下さい。データフォルダの参照先の設定完了です(図 4.7)。

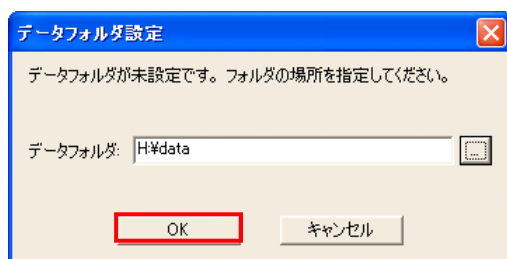


図 4.7 データフォルダの確認

※過去に CommonMP-GIS の使用実績があり、ユーザ設定ファイルが残っている場合は、データフォルダの設定は不要となります。

(4) ライセンス登録

- ① [参照]ボタンを押下してください。『ファイルを開く』画面が表示されます。『ファイルを開く』画面で配布されたXMLを選択し、[開く]ボタンを押下して下さい(図 4.8)。

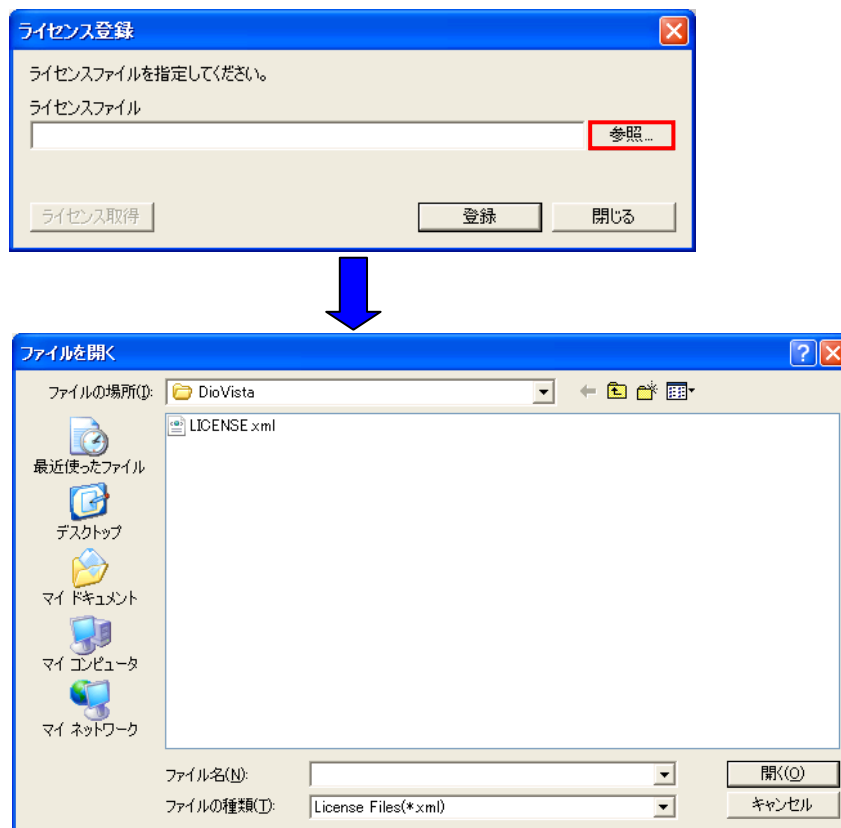


図 4.8 ライセンスファイルの設定

- ② 『ライセン登録』画面で、ライセンスファイルの参照先が指定されていることを確認し、[登録]ボタンを押下して下さい。ライセンスファイルの登録完了です(図 4.9)。



図 4.9 ライセンスファイルの参照先確認

4.2.4 プログラムのアンインストール

プログラムをお使いのコンピュータから削除したい場合は、インストール先のフォルダを削除してください。データを残したい場合は、CommonMP フォルダ下の CommonMPData フォルダ以外を削除してください。

デスクトップにショートカットが作成されていますので、ショートカットを削除してください。

4.2.5 CommonMP-GIS ユーザ設定ファイル格納フォルダの手動削除

CommonMP-GIS 使用時のユーザ設定ファイル格納フォルダを手動で削除します。手動で削除するフォルダを表 4.1 に示します。

表 4.1 手動で削除するフォルダ

項番	OS	削除対象フォルダ
1	Windows XP の場合	C:\Documents and Settings\<ユーザ名>\Application Data\Hitachi Engineering & Services\DioVISTA
2		C:\Documents and Settings\<ユーザ名>\My Documents\Hitachi Engineering & Services\DioVISTA
3	Windows Vista、 Windows 7 の場合	C:\ユーザ\<ユーザ名>\AppData\Roaming\Hitachi Engineering & Services\DioVISTA
4		C:\ユーザ\<ユーザ名>\My Documents\Hitachi Engineering & Services\DioVISTA

4.2.6 GIS 用地図データのアンインストール

お使いのコンピュータから削除したい場合は、インストールした場所のフォルダを削除します。

5. (補足)Visual Studio 2010 上での動作

モデル開発用に提供されている Visual Studio 用プロジェクトは Visual Studio 2008 で作成されています。

Visual Studio 2010 で動作させる場合には、下記手順で Visual Studio 2010 のプロジェクトへ変換する必要があります。

1) Visual Studio 2010 を立ち上げます。

2) メニューの「ファイル」－「プロジェクトを開く」を選択し、自 PC にインストールされている Visual Studio のエディションに従って、

¥CommonMP¥Source¥HYMCO¥OptionImpl¥ModelDeveloperExpressEdition¥TestModelDeveloperMainExp.sln

または、

¥CommonMP¥Source¥HYMCO¥OptionImpl¥ModelDeveloperStandardEdition¥TestModelDeveloperMainStd.sln

を開きます。(図 5.1、図 5.2)

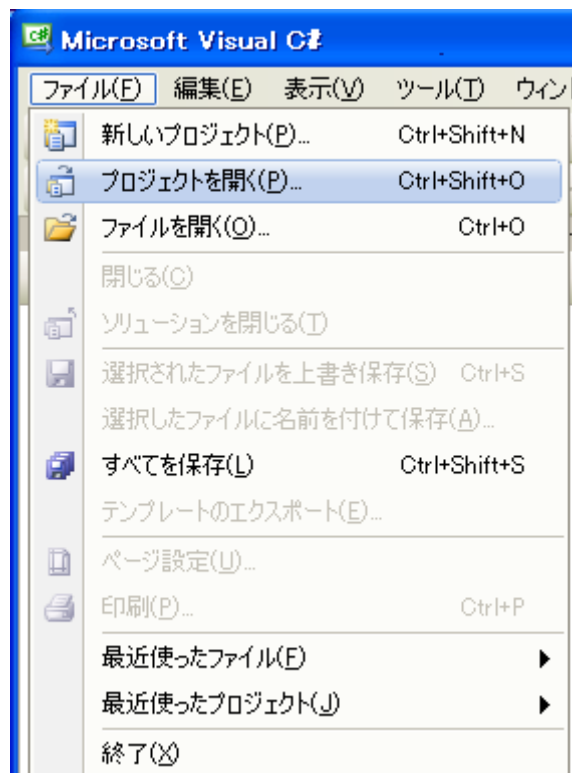


図 5.1 メニュー「プロジェクトを開く」を選択

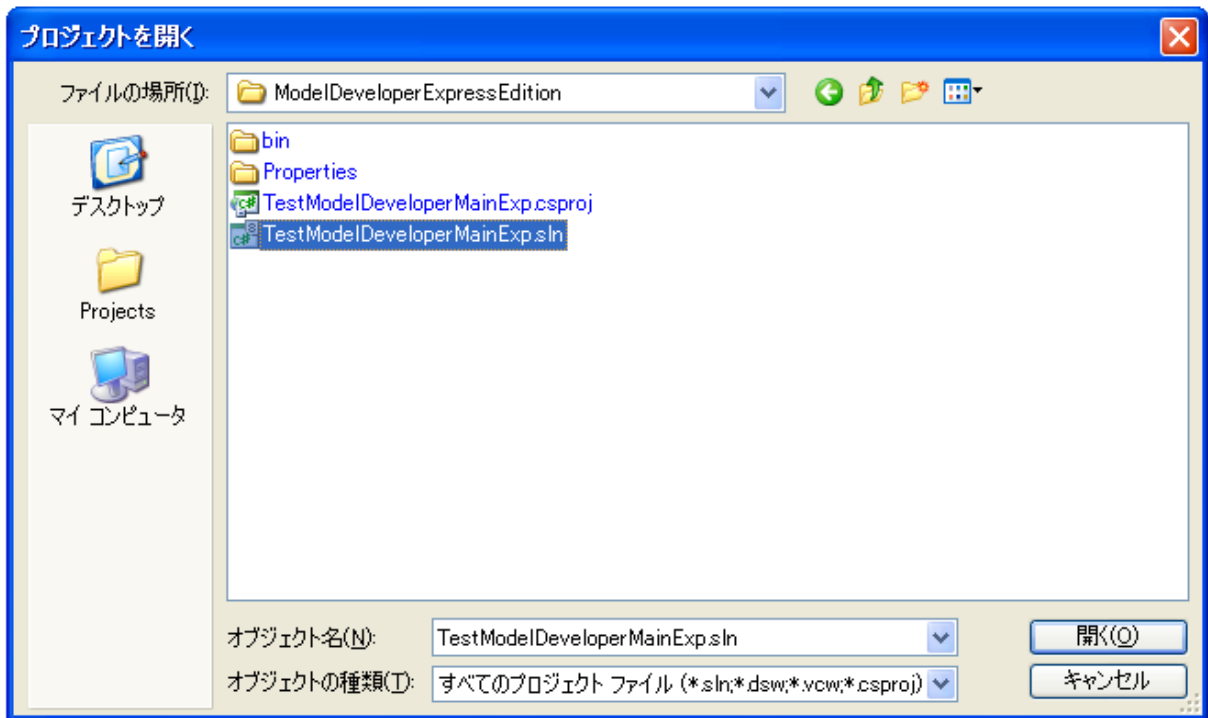


図 5.2 ダイアログ上からプロジェクトを開く

3) すると、Visual Studio 変換ウィザードが起動されますので、以下、ウィザード画面の手順に従って変換を行います。(図 5.3、図 5.4、図 5.5、図 5.6)

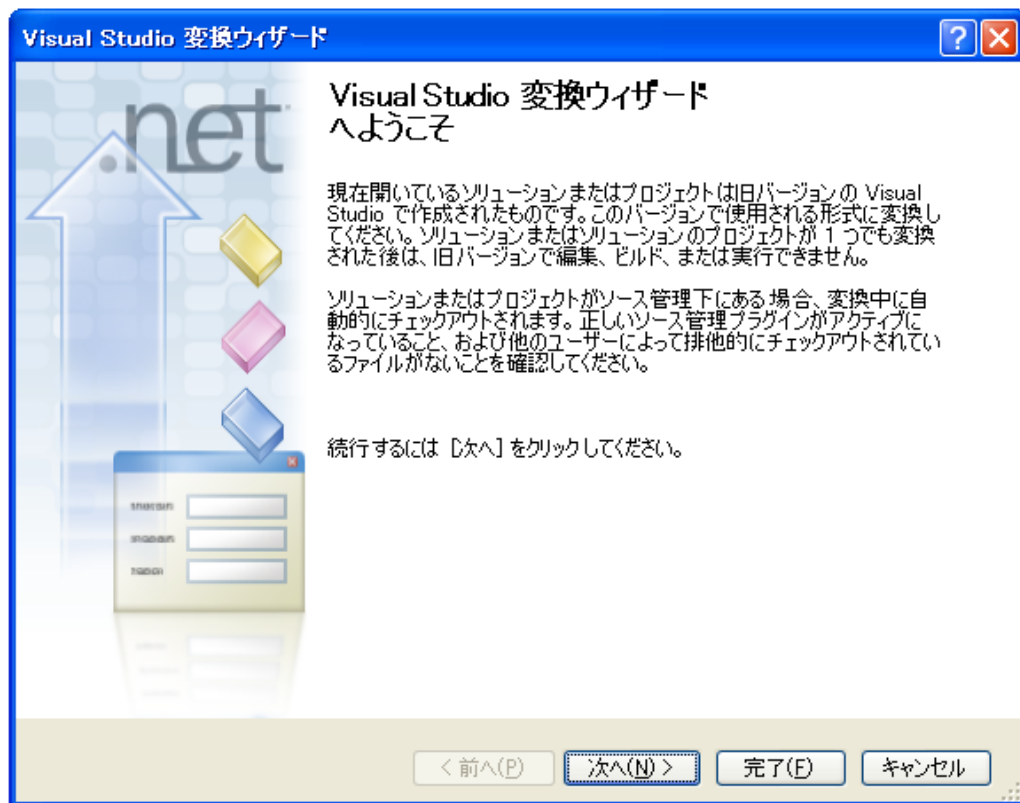


図 5.3 変換ウィザードの起動

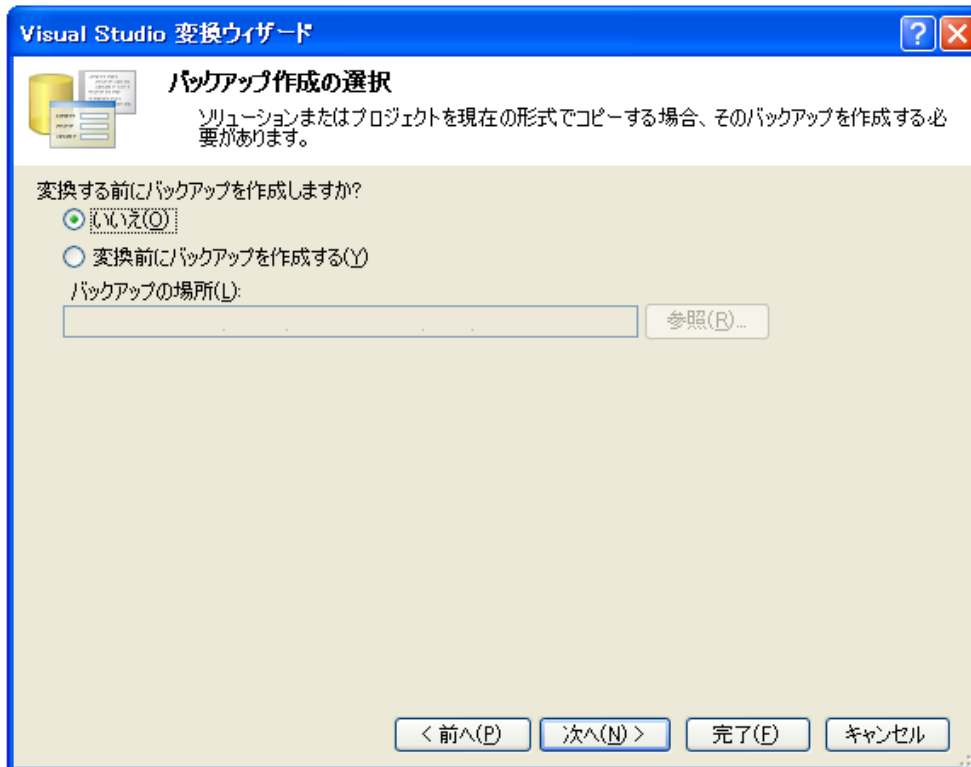


図 5.4 変換ウィザードに従って「次へ」を選択

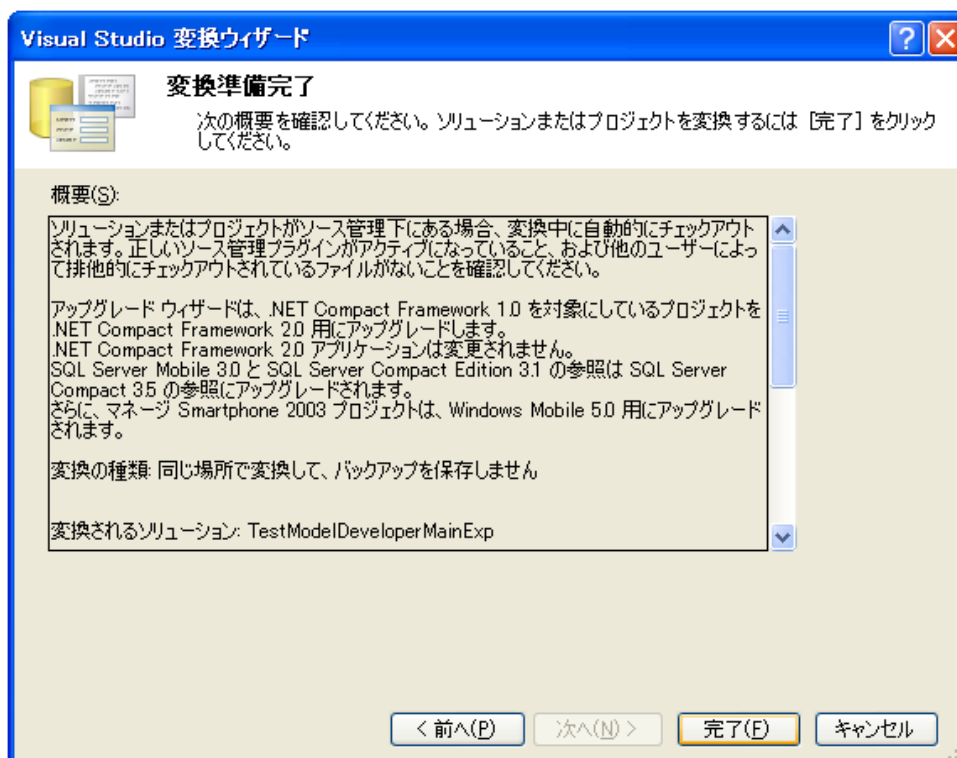


図 5.5 変換ウィザードに従って「完了」を選択

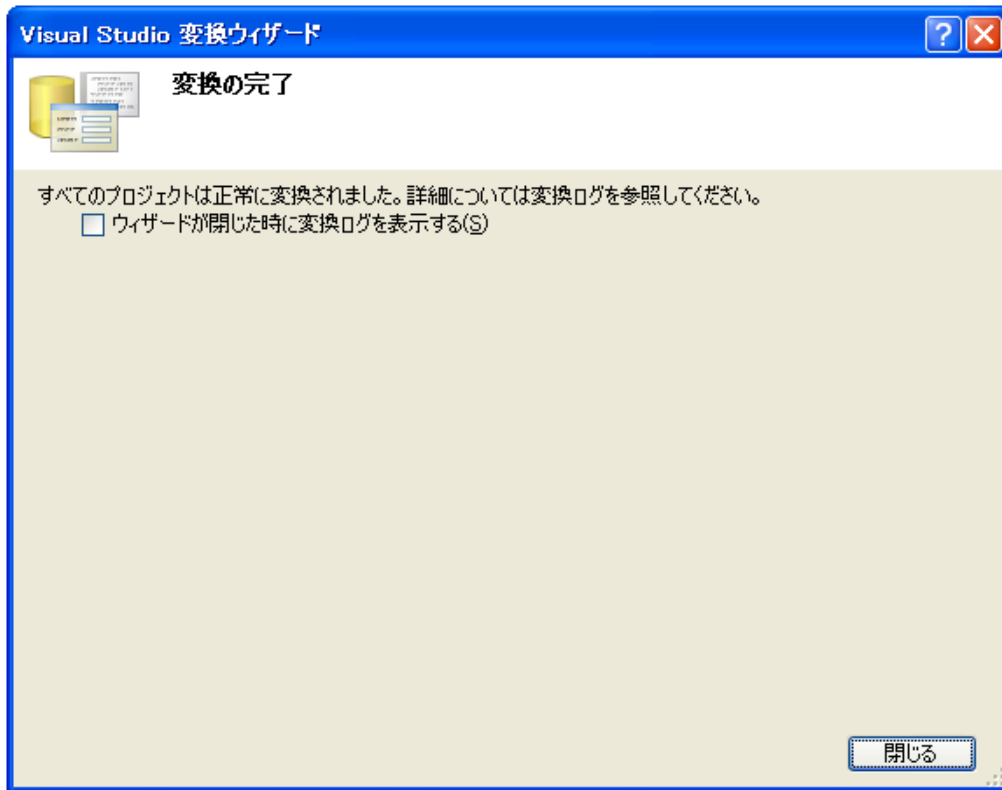


図 5.6 変換の完了

4) 変換完了後、Visual Studio 2010 のプロジェクトが開きます。尚、変換ウィザードは、最初の1回のみ動作し、2回目からは、Visual Studio 2010 に変換されたプロジェクトがそのまま開きます。(図 5.7)

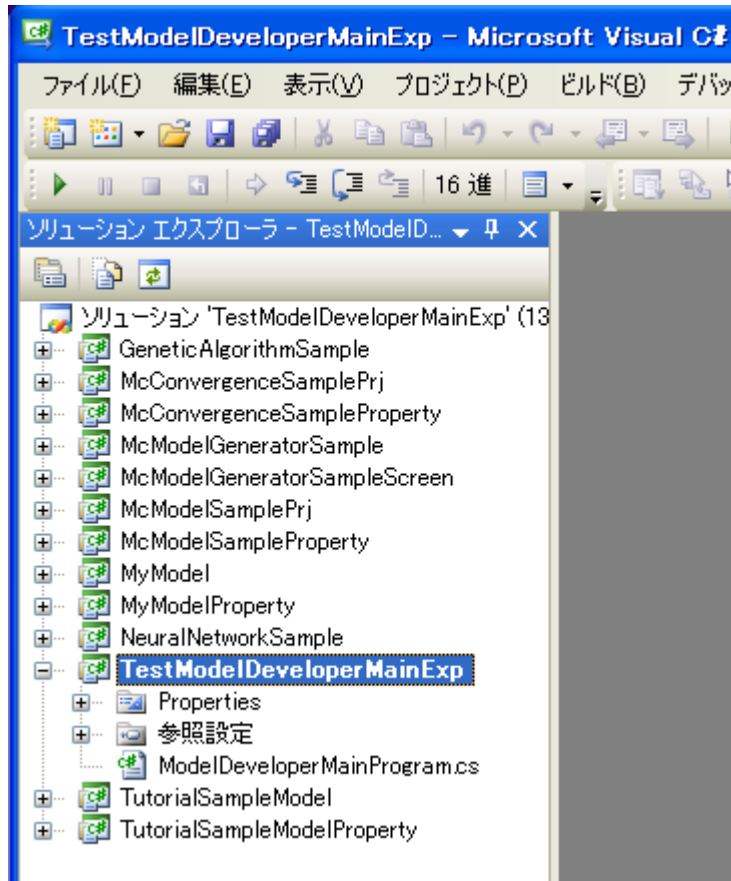


図 5.7 変換済みのプロジェクトが開く

【Visual Studio 2010 のプロジェクトへ変換する際の注意点】

Visual Studio 変換ウィザードにより、Visual Studio 2010 のプロジェクトへ変換されるとプロジェクトの対象フレームワークが「.NET Framework 4」に変更されます。

CommonMP の実行環境下で動作させる際は、「.NET Framework 3.5」とする必要があるため、下記手順により変更してください。

1) ソリューションエクスプローラー上にある対象のプロジェクトを選択後、右クリックして表示されるメニューの「プロパティ」を選択します。

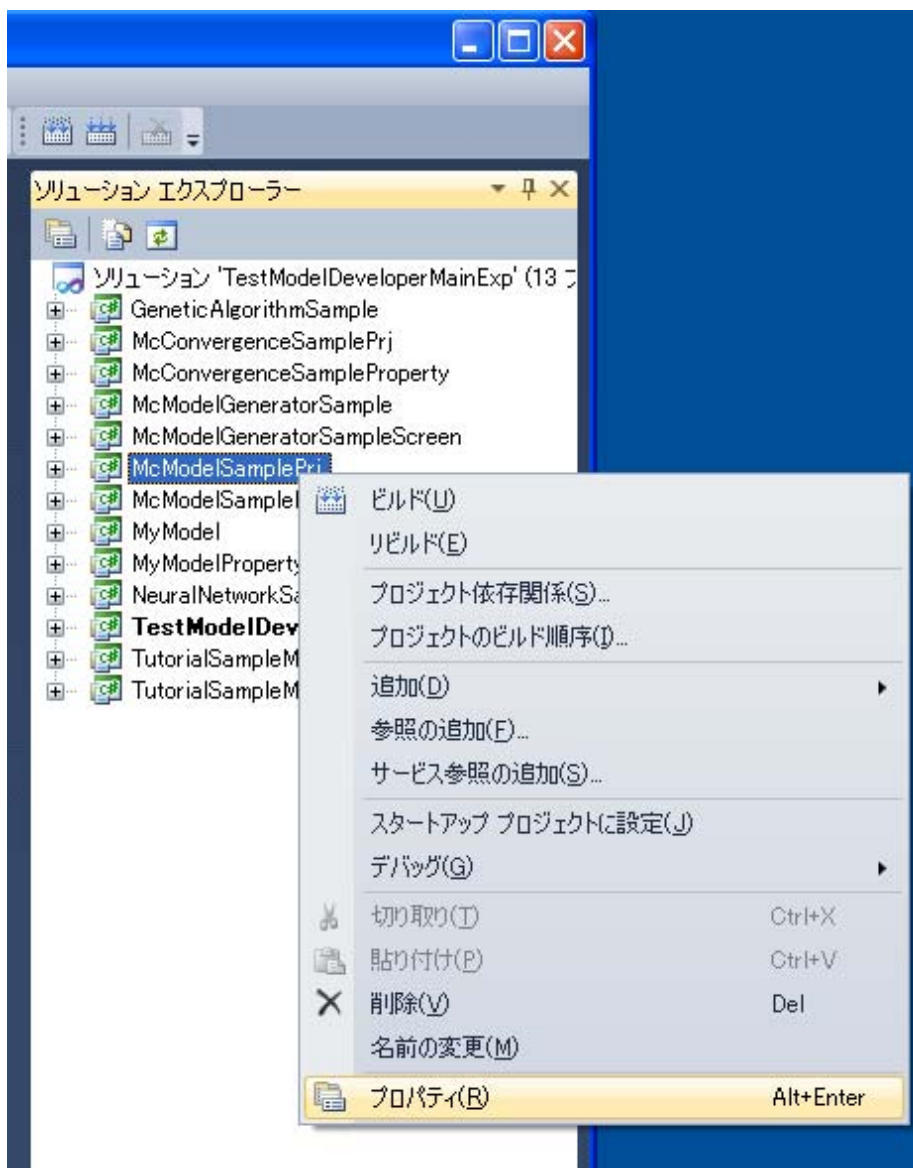


図 5.8 プロジェクトのプロパティ情報を開く

2) 表示されるプロパティ情報のアプリケーションタブにある対象のフレームワークから、「.NET Framework 3.5」を選択してプロパティ情報を保存します。

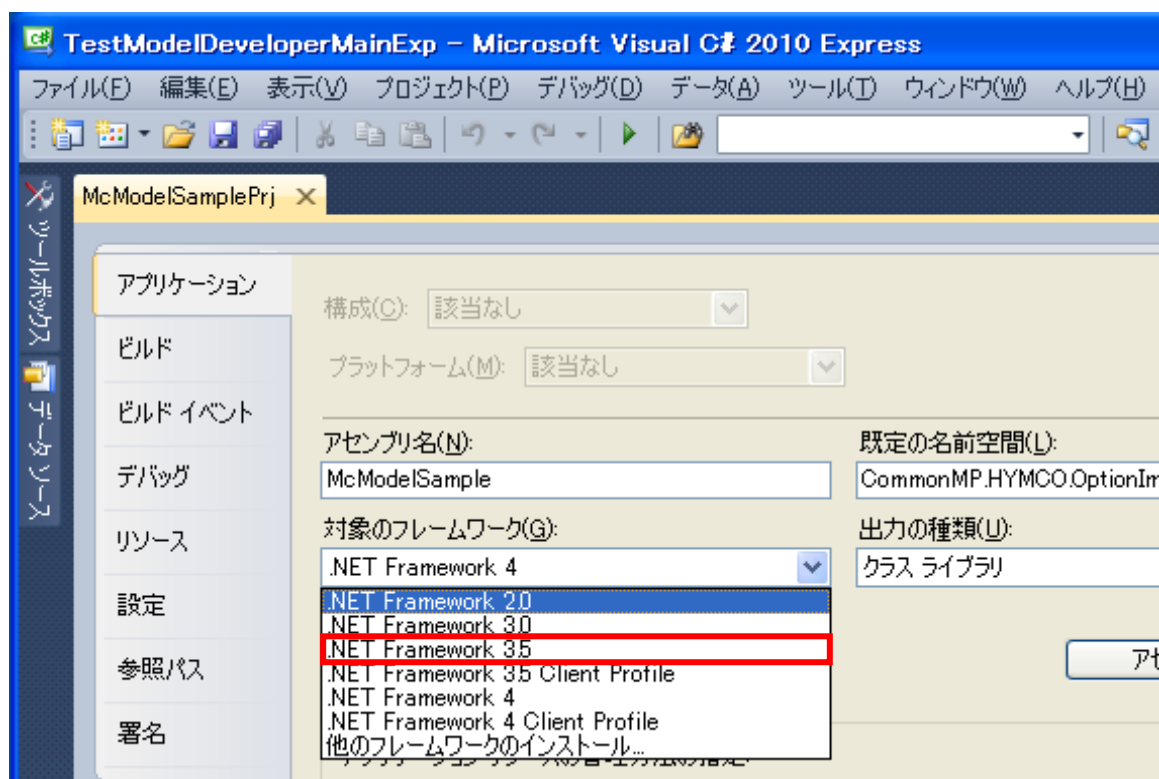


図 5.9 対象のフレームワークを変更